

## 花き生産技術(キク類、枝物)の習得による経営安定

対象者 甲賀市甲賀町 Y氏

### 【普及活動のねらい】

Y氏は、甲賀地域で普及が進む中輪ギク栽培に早くから興味を持たれ、平成30年度末の一般企業の定年退職を機に「花き＋水稲」の複合経営を目指して就農されました。

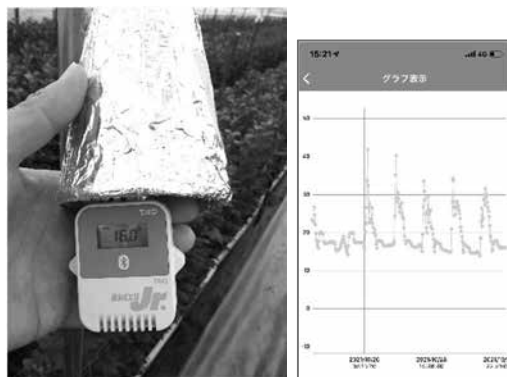
令和元年度は、JA こうか花卉部会の栽培研修会やほ場見学に参加して知識の習得に努められるとともに、花き経営開始に向け、施設等の準備を進めてこられました。

令和2年度は少量土壌培地耕による加工用中輪ギク（施設面積325㎡）に取り組み、令和3年度は施設を増棟（施設面積292.5㎡）し中輪ギクの出荷期間の拡大を図るとともに、露地枝物（ユーカリ）の栽培と出荷にも取り組みました。当普及指導センターは、Y氏が花き専用ハウスと露地を利用した「花き＋水稲」モデル経営体となるよう、中輪ギク栽培年二作体系と枝物の栽培技術の習得に向けて支援を行いました。

### 【普及活動の内容】

加工用中輪ギクについては、昨年度からの「盆前－11月下旬出荷作型」に加えて、増棟したハウスで取り組まれる「8月第4週－年末出荷作型」の栽培技術習得に向け、病虫害診断、電照による開花調整の徹底、年末出荷作型での加温管理、作型ごとの収穫適期の判断基準など、切り花品質に直結する重要な作業が確実に行われるよう、現地での指導をこまめに行いました。

ユーカリについては、品種ごとの生育速度や発生する病虫害の傾向について現地でも確認し、これらの特徴の理解を促すとともに、収穫・出荷調製作業について、手伝いに来られている集落の女性との作業分担が整理されるよう作業台の配置等について助言し、実演を交えながら説明しました。



温度データロガーを用いて管理状況を共有（年末出荷作型）

### 【普及活動の成果】

以上の取組の結果、中輪ギクでは、収穫遅れによる蕾の開きすぎや花首徒長による草姿不良等が見られず、花束加工業者が求める良品質なキクを生産することができました。これにより、7、8月は目標出荷率（植付本数に対する出荷本数の割合）である85%を達成（86.5%）することができました。11月～年末出荷分については、栽培終盤の暖房機の不調により一部が収穫できず目標の達成は困難となりましたが、作業は計画通りに実施でき、栽培に手ごたえを感じておられました。ユーカリについても、11月から収穫を開始され、花き卸売市場からは、切り枝品質良好との高い評価が得られました。

対象が持続的な「花き＋水稲」モデル経営体となるよう、引き続き支援していきます。



中輪ギク「神馬」の  
出荷調製作業